

長野県の埋蔵文化財情報誌

信州の遺跡

第2号



かがみちゃん

最新発掘調査から1

あさかわせんじょうち

浅川扇状地遺跡群(長野市)

弥生時代の集落跡、みつける！

浅川扇状地遺跡群は、善光寺平（長野盆地）の北部に位置し、飯縄山から流れ出て千曲川に注ぐ浅川により形成された扇状地上にあります。

遺跡群内には、縄文時代中期・弥生時代中期～古墳時代後期の集落跡である檀田遺跡や、弥生時代後期初頭の吉田高校グラウンド遺跡など30ヶ所を超える遺跡が含まれています。

長野県埋蔵文化財センターでは、県道高田若槻線建設に伴い平成23年4月から、遺跡群の中央付近にあたる桐原・吉田地区で発掘調査を行っています。昨年度の調査では、古墳時代～平安時代の住居跡や中世の墓跡・堀跡など多くの遺構を調査しました。住居跡からは古墳時代～平安時代の土師器や須恵器などいろいろな遺物が出土しました。中でも、奈良時代の筆立て付円面硯の出土は長野県初となり、大いに注目されています。

また、今年度の調査では、新たに弥生時代中期の流路（川）跡や弥生時代後期の集落跡も発見され、この地区でも檀田遺跡や吉田高校グラウンド遺跡のように古い時代から人々が生活を始めていたことがわかりました。

（長野県埋蔵文化財センター 西 香子）



50mもはなれたものがくっついたんだよ



ドキシロー



浅川扇状地遺跡群 南からの遠景（白線内が調査地 ●が吉田高校グラウンド遺跡）



昨年度の調査で見つかった筆立て付円面硯に接合する破片が、今年は50m程離れた溝の中から出土しました。

ほしくそとうげこくようせきげんさんち 星糞峠黒耀石原産地遺跡 (長和町)

こくようせきこうざん 黒耀石鉱山での新たな発見

長和町星糞峠にある黒耀石鉱山では、平成19年から、史跡整備を目的とした発掘調査を行っています。今年度の調査では、鉱山のほぼ中腹に当たる第1号採掘址から、縄文時代後期にさかのぼるとされる木製の構造物が発見されました。その性格は採掘の際の土砂崩れ防止を目的とした木柵もくさくと考えられ、大きな反響を呼んでいます。

黒耀石鉱山は、峠の斜面一帯に月面クレーターのような窪みが階段状に連なり、地表面には星糞という地名が示すように無数の黒耀石原石やその割り屑が散らばっています。この窪み地形の形成要因や採掘の年代を解明するために、調査を行いました。その結果、わたしたちが「採掘址」と呼んだ窪み地形の地下には、縄文人が黒耀石を採掘する際に掘り捨てた土砂が、3mから5mにわたり地層として厚く積み重なっていることが確認できました。また、地層中に採掘当時の地表面3面が発見され、黒耀石の採掘が何度も行われ、斜面に掘り捨てられた土砂が積み重なって窪みを巡る起伏がつけられたと判断できました。

旧地表面の時期は、深鉢形土器の破片が出土し、その土器に付着していたオコゲと地表面上に広が



採掘の際の土砂崩れ防止のための木柵

る炭化物の年代測定を行った結果、1枚目と2枚目がおよそ3,500年前の縄文時代後期の地表面であると判明しました。3枚目と、さらにその下に広がる黒耀石を含む鉱床が掘られた年代については、現在、年代測定を進めています。

縄文人も安全対策!?

木柵もくさくは、鉱床のある地下5mの深さで発見されました。直径10cmほどの丸太材を横に3段積み上げ、その内側に直径3cmの杭が横積みの丸太材が



木柵復元想定図 (画: 大竹幸恵)

転げ落ちないように縦方向に打ち込まれています。確認できた横積みの丸太材は長さ1m40cmほどですが、両端は調査区外へと延びて全体の大きさは、わかりません。

また、木柵はL字形に組んであり、直交する部分では、丸太材の枝の又に差し込んで連結するなど、強固につくられていました。

木柵の背後には、黒耀石を取り除いて捨てられ

た火砕流起源の白色の粘質土が高く積み上げられていました。その裾部に構築された木柵は、水の影響で崩れやすいこの粘質土の崩落を防いでいたものと考えられます。木柵の樹種やその年代についても、地層の堆積構造とともに分析中です。

わたしたちの祖先の生活の中で、黒耀石は命を支える貴重な資源でした。鉱山と呼んでいるこの大規模な黒耀石の山で、まずは『安全第一』と、私たちの祖先はそんな気配りもしていたのではないのでしょうか。

(長和町教育委員会 大竹幸恵)

てんぐいわいわかけ

天狗岩岩陰遺跡(小海町)

山間部の岩陰遺跡

天狗岩岩陰遺跡は、南佐久郡小海町塩平にあり、八ヶ岳の噴火で堆積した泥流を相木川が浸食してできた、数多くの洞窟、岩陰のひとつです。平成7年の佐久考古学会有志による調査では、弥生時代後期の土器片、石鏃、骨鏃、獣骨などが出土しました。平成23・24年に総合研究大学院大学、首都大学東京、東京大学が先史時代に内陸部の岩陰を利用した人間の活動と当時の環境を、生物考古学(環境考古学)の手法により研究することを目的として、共同調査を行いました。

岩陰遺跡の発掘は、落石の危険と隣り合わせです。過去の落盤により堆積した岩を、削岩機で碎きながら掘り下げます。発掘参加者の安全のために、岩陰の天井部分を支える鉄骨の支柱と屋根を設置しています。発掘区の上に、このような屋根を設けるのは、日本ではおそらく初めてです。

岩陰遺跡の環境を探る!

調査では何層も重なった灰が確認され、土器の形式から、弥生時代前期から古墳時代前期にわたる遺物が出土する層があることがわかりました。黒曜石製の石鏃、彫刻のある鹿角製品、刃物で角



調査風景

を切り落とした痕がある鹿の頭骨、岩陰を利用した人が食料としたシカ、イノシシ、ニホンザル、クマなどの骨、サケ科の魚骨、炭化した植物の種子などが出土し、古墳時代の層からは炭化コムギも見つかりました。

こうした調査成果から、岩陰が利用された季節を知ることができます。平野部の集落で稲作が始まった弥生時代以降、山間部の岩陰は「狩猟キャンプ」として短期間利用されたのか、山間部を生活の基盤とする別の集団がいたのか、という問題を検討するための情報が得られます。また、炭化種子や獣骨を使い、科学的な年代測定で岩陰が利用された時期を調べます。

調査区から採取した土を水洗し、炭化した雑草の種子や木材、微小な動物骨を採取します。これらには、遺跡周辺の植生や動物相の変化と環境が反映され、環境の変化に応じて生業や居住のしかたがどのように変化したかを知ることができます。

平成25年も発掘を続け、縄文時代の層が確認されれば、縄文時代から弥生時代への移行期の生活の変化を探ることができるでしょう。

(総合研究大学院大学 本郷一美)

安全のために
鉄骨の屋根を
設置したんだよ



どーたくん



黒曜石製の石鏃
(ほぼ実寸大)



鹿角製品
(ほぼ1/2)

ごんが 恒川遺跡群(飯田市)

都と信濃をつなぐ古代の役所 伊那郡衙

恒川遺跡群は、飯田市北部の座光寺地区にある遺跡です。昭和52年から56年にかけて行った国道153号のバイパス建設に伴う発掘調査で、古代の伊那郡を治めた役所である「伊那郡衙」の推定地として注目され、その後の調査で郡衙として断定されました。

郡衙に関係する遺構としては、正倉（人々から税として集めた稲などを保管した倉）や館（役人の宿泊施設）もしくは厨家（役所の給食施設）が確認されています。

正倉はこれまでの調査で19棟が確認されており、その構造から7世紀後半から10世紀にかけていくつかの時期に分けられます。また、建物の周囲では区画溝の一部が確認されています。溝の中から瓦類が多数出土する箇所があり、8世紀後半には瓦が葺かれた特別な倉が存在した可能性が考えられます。館もしくは厨家は、掘立柱建物や竪穴建物が確認されており、何回か建替えられている建物もみられます。

遺物では、正倉の中から「炭化米」が多数出土しており、収められた穀物の種類や、倉の種類を考えるうえで全国的にも貴重な資料といえます。

また、県内で最も多く出土している硯、郡衙の施設名である「厨」が墨書された9世紀後半の灰釉陶器碗が注目されます。その他、遺跡やその周辺から日本最古の流通貨幣である「富本銭」や「和同開珎銀銭」（いずれも県宝指定）が出土しており、都との関係の深さを物語っています。

伊那郡衙は、東山道を通じて東国への第一歩に位置する役所であり、政治・経済上で都と信濃を結ぶ結節点として重要な役割を担いました。

飯田市教育委員会では、現在、伊那郡衙の郡庁（郡の政務を行う中心的な建物）を確認する調査を重点的に行っています。郡庁の場所はまだ特定されませんが、平成22・23年度の調査では、県内で初めてとなる総地業と呼ばれる地面を地盤改良した正倉建物が1棟確認されました。

また、今年度の調査では、館もしくは厨家に関連する掘立柱建物1棟が確認され、この建物の近くからは硯が1個体出土しました。

これからも伊那郡衙の姿を明らかにするため、さらに調査を進めていきます。

（飯田市教育委員会 坂井勇雄）

2007『恒川遺跡群 官衙編』飯田市教育委員会

正倉というのは
税として集めた
稲などを保管した
倉なんだよ。



まがちゃん
たまちゃん



伊那郡衙の正倉



富本銭

日本最古の
流通貨幣



墨書土器「厨」

ひらいで
塩尻市 平出遺跡 所在地：塩尻市宗賀

JR中央本線塩尻駅から南西に1kmほど行くと、旧中山道の一里塚跡が見えてきます。その南側一帯が国の史跡、平出遺跡にあたります。

この付近では、江戸時代から土器や石器が拾われ、戦後すぐ（昭和25年）には学術調査が始まるといった長い研究の歴史を持っており、「日本三大遺跡」の一つと言われてきました。

これまでの調査で、290軒を超える^{たてあな}竪穴建物跡や^{ほったてばしら}掘立柱建物跡が発見され、縄文時代～平安時代のムラの跡であることがわかっています。

平成9年～24年には史跡整備事業が行われ、広大な敷地の中に、縄文時代（約5,000年前）、古墳時代（約1,500年前）、平安時代（約1,000年前）の3つのムラが復元されました。

公園は、どこからでも自由に入出りできるよう開放されています。思いっきり走り回りながら、それぞれの時代にあわせて植えられた草木や、建物の違いを感じてみてください。

また、聞いてみたいことがあったら、併設されたガイダンス棟に立ち寄ってみましょう。



開放感たっぷりの公園で、大昔のムラを探検できるよ（古墳時代ムラ）



これ、何に使ったの？（平安時代ムラ、復元住居内のカマド）

まつしろじょうあとつけたりしんごてんあと
長野市 松代城跡附新御殿跡

所在地：長野市松代

JR長野駅から南へ向かい、千曲川を渡ると松代の城下町に入ります。

松代城の前身は、上杉謙信との戦いに備えて、武田信玄が千曲川べりに築いた^{かいづじょう}海津城です。江戸時代に入り、元和8年（1622）に松代藩初代藩主^{まなだのぶゆき}真田信之が上田から移封され、3代幸道の時、幕命により松代城に改名されました。

幕末に、^{さんきんこうたい}参勤交代の制度が緩和されると、江戸住まいだった9代藩主^{ゆきのり}幸教の母、貞松院が帰国できることになりました。新御殿は、貞松院の住まいとして元治元年（1864）に造営されたものです。その後、昭和41年に旧松代町に譲与されるまで、真田家の私邸として使われてきました。

江戸時代の大名家の御殿建築が、お庭とともに、ほぼ完全な形で残された例は非常に少なく、全国的にも貴重な資料とされ、昭和56年に国の史跡指

定を受けました。

平成16年～25年には保存整備事業が行われ、平成22年に「146歳のお色直し」と銘打って、美しくよみがえったお庭や建物が公開されました。

簡素な中にも優美さをそなえた御殿の御表居間から、松代十萬石の大名になった気分です。「水心^{すいしん}秋月亭^{しゅうげつてい}」（お庭）を楽しんではいかがでしょうか。

（長野県教育委員会 寺内隆夫）



御殿から四季折々のお庭を楽しみ、ホッとひと息しませんか

東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の支援

福島県への埋文調査支援

福島県へは、年度当初に、かつて阪神・淡路大震災を経験した兵庫県から1名が派遣され、孤軍奮闘していました。10月からは、青森県・さいたま市・京都府・長野県派遣の4名が加わって支援職員は5名となり、福島県職員とともに復興班を組んで、浜通り地方（警戒区域等を除く）の復旧・復興事業に伴う調査を主体とした支援業務にあたっています。

11月以降、復興班は、^{ほじょう}圃場整備事業、災害公営住宅整備事業予定地の分布・試掘調査を行ってきました。丘陵地の調査では、この地域の特色である^{おうけつぼ}横穴墓や古代の製鉄関連遺構も検出しています。また、1月下旬には^{さくらだ}広野町櫻田IV遺跡（縄文・奈良）の本発掘調査に着手しました。

来年度以降、これらに加え、防潮堤整備、道路整備、河川改修などの事業、また原発関連事業に

伴う調査も大きく展開してきます。派遣期間は残り1ヶ月となりましたが、今後の復興調査を円滑に進めるためにも力を尽くしていきたいと思っています。（長野県教育委員会から福島県教育委員会へ平成25年3月まで派遣 若林 卓）



災害公営住宅事業地の試掘調査(相馬市)

中央に黒く見えるのが炭焼窯 ^{すみやきがま} 別地点で製鉄炉も検出

圃場整備事業地(相馬市)

地盤沈下や排水設備の破損のため、海水が引かず、「^{かた}瀉」状態のままの水田



宮城県南三陸町への埋文調査支援

被災地における埋蔵文化財調査の主な事業は、「防災集団移転事業」、「^{ほじょう}個人住宅建設」、「圃場整備事業」です。この中でも防災集団移転事業は、津波の被害にあった地域には住宅建設ができないため、安全な高台に集落を移転する事業です。そのため規模が大きく、大々的な造成を行う必要があります。可能な限り遺跡のない地点に計画していますが、南三陸町では被災していない平地が少なく、発掘調査が必要なケースが出てきており、大きな発掘調査として^{にいだたてあと}新井田館跡の調査を予定しています。

新井田館跡は中世の館跡で、本丸、二の丸、堀切、土塁などが確認されています。遺跡範囲は約78,000㎡、このすべてが調査範囲となっており、本来であれば2年以上かかる調査規模ですが、早急に住宅を供給するために、1年程度で調査を終了させる予定です。

宮城県教育委員会文化財保護課に協力を要請して事業を進めていますが、災害公営住宅事業等が県内被災地域にて計画・実施されているため、調査員の数が不足しています。今年度は宮城県に17名の調査員が派遣されていますが、来年度以降も

増員の要請を行っています。

この事業以外にも調査を必要とする事案が増加しており、調査員の不足だけではなく、事務処理を行う人手も不足しています。事業を円滑に進めるためには、人的支援が不可欠であることを実感しています。今後数年間は慢性的な人手不足の状況が続くことが予想され、長期的な人的支援を必要としています。（原村教育委員会から南三陸町教育委員会へ平成25年3月まで派遣 佐々木 潤）



南三陸町志津川地区(平成24年3月)



新井田館跡

長野県埋蔵文化財センターに展示室がオープンしました

今年度から埋文センターミニ展示室がオープンしました。床面積50㎡と小さなスペースですが、整理作業中の遺跡を中心に、ホットな展示・公開を行っています。県内のみならず、県外からの出張に際して見学される方もあり、今後の活用に期待が持たれます。

ぜひ、気兼ねなくお立ち寄りください。



調査のようすをスクリーンにて上映

埋文センター展示室のご案内

利用日：年末年始、祝日を除く月～金

利用時間：午前9時～午後5時

利用方法：無料、事前申し込み不要です。

※団体でのご利用は事前に連絡・調整をお願いしています。

長野県埋蔵文化財センター30周年企画展が始まります

長野県埋蔵文化財センター30周年企画展

「掘ってわかった信州の歴史」 長野県の遺跡発掘2013

長野県埋蔵文化財センターは昭和57年(1982)に設立され、今年度で30年を迎えました。

長野県埋蔵文化財センターがこれまで発掘調査してきた遺跡のなかから45遺跡約1000点に及ぶ資料を一堂に会し、信州の新たな歴史像を考えます。展示する出土遺物には、国指定重要文化財2件、長野県宝3件が含まれます。ぜひご覧ください。

長野県立歴史館会場 TEL 026-274-2000 (代)
平成25年3月16日(土)～6月2日(日)
○信州の遺跡講座 4/6・13・20・27
5/11・18・25 6/1
午後1時30分～3時
○埋文体験デー 5/3(金・祝)

伊那文化会館会場 TEL 0265-73-8822 (代)
平成25年7月13日(土)～8月4日(日)
○埋文体験デー 7/27(土)
詳細は各会場へお問い合わせください。

右：千曲市社宮司遺跡出土
の木造六角宝幢(県宝)
※写真は複製です

左：信濃町日向林B遺跡出土
の石器(重要文化財)



記念講演会・フードトーク&ミニコンサート 「縄文人の食物語～自然の恵みのレシピ～」

会場：長野県立歴史館
期日：平成25年3月23日(土) 午後1時～4時
講師：渡辺誠(名古屋大学名誉教授)
演題：「縄文時代の食文化」
出演者：渡辺誠、会田進(長野県考古学会長)
美咲(シンガーソングライター)



中野市
びわしま
琵琶島遺跡
2012. 4. 9～10. 31 調査
長野県埋蔵文化財センター

●弥生時代中期を中心とする集落跡 一部分が開口する円形の溝は、平地建物跡の可能性が高いと指摘される。



佐久市 周防畑遺跡群
だいずた
大豆田遺跡Ⅳ
2012. 4. 19～11. 21 調査
佐久市教育委員会

●大規模な古代集落跡の南端を確認した。遺構に伴わないが、飛鳥～奈良時代と考えられる古い軒丸瓦の出土は注目される。(調査機関より写真提供)



飯田市
かんのみねじょう
神之峯城跡
2012. 8. 17～12. 20 調査
長野県埋蔵文化財センター

●中世後半期の礎石建物跡と墓を確認した。知久氏が建立した寺院「法心院」の推定地でもあり、関連性が指摘される。



考古学の窓

～縄文時代の水さらし場～

平成3年、中野市栗林遺跡の発掘調査で木材を四角に組んだ遺構（木枠）が発見されました。この遺構は段丘崖下から谷に向かって流れる小川の湧水地につくられ、主にクリ材を利用した三つのほぼ方形の木枠（一辺2m程）が組み合わさった状態で確認されました。遺構の中からは少量のトチとクルミ、縄文時代後期の土器が出土しています。

一方、遺跡内では縄文時代後期のクルミを保管したと考えられる貯蔵穴が23基（クルミが出土）発見されています。スリ石・石皿などの石器も出土し、周辺で木の実をつぶす・粉にするなどの加工作業が行われていたと考えられます。

縄文時代の食料資源は、内陸部において、イモなどの根茎類や木の実などの堅果類といった植物質食料が主要な食べ物と考えられています。

民俗事例によれば、木の実は、「渋み（アク）」がないクリやクルミなどのほかに、アクを抜く作業が必要な種類があります。東日本の落葉広葉樹林帯に多いクヌギ類・ナラ類は、木の実を製粉か

加熱して、さらに水にさらしてアクを抜きます。トチはこれに「灰」を加えた作業が必要です。

なお、アク抜きの必要のないクルミも、採ってすぐには口にできず、外側の厚い皮を腐らせて取り除くことや新しい実の脂肪分が強いので、一定の保存期間も必要ようです。

木枠は生活に必要な水を利用した遺構であり、木の実の保管・加工という作業過程のなかで利用された水さらし場と考えられます。水さらし場として長野県では唯一の発見となっています。

（長野県埋蔵文化財センター 岡村秀雄）



長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

〒380-8570 長野市南長野字幅下692-2
TEL 026-235-7441 FAX 026-235-7493
メール bunsho@pref.nagano.lg.jp

(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
http://naganomaibun.or.jp/

印刷：信毎書籍印刷株式会社